

nikkor club

284
2026 SPRING

nikkor
club

乙と歩く
春を切り抜く





nikkor club

23時を過ぎた頃。人波の隙間から現れた狐を、一瞬の光が照らす。冷気とざわめきが混じり合い、深夜の街に沈んでいた気配がゆっくりと立ち上がる。見慣れた都市は、その奥に隠していたもう一つの層を、ほんのわずかに覗かせた。

Z8・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S II・f/2.8・1/125秒・ISO6400



Photography
Portfolio — vol.8

秋山華子

CONTENTS



表紙写真 星野佑佳

山一面にピンク色のしだれ桜が咲く高見の郷。雨の日は霧が湧くことが多く、木が伐採されて土がむき出しになっている斜面を隠してくれる。縦位置で数枚撮った後は、横位置にして、Z8のインターバル機能でタイムラプス動画を撮影。露出平滑化設定にすると、動きの激しい霧風景でも適正露出をキープしてくれるのが頼もしい。
Z8・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S・f/11・1/80秒・ISO200

特集

10 Zと歩く 春を切り抜く

写真・解説 星野佑佳／鎌田風花／助川康史／岡本洋子

02 Nikon Creators 応援 スプリングキャンペーン2026／会員限定 特別販売

04 第74回ニッコールフォトコンテスト作品募集のお知らせ

コンテスト

- 32 サロン・ド・ニッコール カラーの部
選評：佐藤倫子(1～3席)／大西みつぐ(佳作)
- 44 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部
選評：ハナブサ・リュウ
- 52 ネイチャー・フォトサロン
選評：三好和義
- 60 ステップアップ・フォトサロン
選評：秋山華子
- 65 ワンポイントアドバイス
- 66 得点表／年度賞発表
- 68 総評
- 69 予選通過者一覧

作品

- 06 THE GALLERY企画展
「東京カメラ部10選
U-22 フォトコンテスト 入選作品展」
「10“TEN”-Z Memory-」 澤村洋兵
- 08 THE GALLERYセレクション展
「Gradually」 水咲奈々
- 表4 三好和義×Z8

製品情報

- 26 PRODUCT REVIEW VOL.34
Z5II 24-105 レンズキット 上田晃司

連載

- 表2 Photography Portfolio Vol.8
秋山華子
- 20 新製品の開発秘話、教えてください！
開発者Special Interview
Vol.1 ZR
Vol.2 NIKKOR Z 24-105mm f/4-7.1
- 28 アベっちの使った!撮った! vol.12
ZR 阿部秀之
- 30 エプソン 楽しくきれいにプリント講座 Vol.27
作品づくりを意識したプリントへの取り組み方
ミゾタユキ

インフォメーション

- 09 写真展スケジュール
- 70 お詫びと訂正
- 71 会報誌フォトコンテスト改訂のお知らせ
- 72 NCニュース
- 74 Let's Go Nikon College!
「花を撮りながら学ぶ ポケ表現の基本講座」渡邊翔一
「街スナップで体感する Z50IIの魅力!」クキモトノリコ
- 76 会員写真展 PickUP!
「アートランド」大城盛助／「消えゆく肖像」小川千夏／
「竹林逍遥」溝口広子
- 77 イベントレポート・イベントニュース
- 79 支部だより・支部展情報
- 表3 自分らしい表現をNikon College
- 巻末 ニッコールクラブ登録情報変更依頼書
会報285号フォトコンテスト応募規定

Z と 志 く

nikkor
club

Z8・NIKKOR Z 135mm f/1.8 S
Plena・f/4・1/200秒・ISO200
撮影：岡本洋子（群馬県安中市）

春を切り抜く

nikkor club

カメラを持って外へ踏み出すのが、
一年で最も楽しい季節の到来です。
生命力あふれる景色も愛おしい日常も、
すべては春がもたらす贈り物。
4人の写真家が贈るそれぞれの、「春の視点」。
Zが描き出す繊細な質感と鮮やかな色彩を通じ、
変わりゆく季節の温度を体感できるはずです。
この春、あなたの写真ライフを
より豊かにするヒントが、ここにあります。



大雨の翌朝、八重桜の桜並木の参道を散花と絡めて撮影。密度感を上げるため、少し離れた位置から望遠レンズで狙う。日の出時刻頃だが、地形と悪天候のおかげで、夜明け前のような雰囲気が出た。また、係の方が灯笼の灯りを付けてくれたのもありがたかった。(滋賀県長浜市) Z8・NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S・f/13・0.6秒・ISO100

星野佑佳 = 写真・解説



花の密集度を上げる望遠レンズの圧縮効果に対して、広角レンズで被写体にぐっと近づくと、花の隙間は目立ってしまうが、インパクトのある作品になる。下から煽る、地面付近から撮る視点も試してみたい。見せたい部分がボケないように、ピント位置には要注意。(長野県伊那市) Z9・NIKKOR Z 14-30mm f/4 S・f/11・1/60秒・ISO200

風景

Chapter 1

一期一会の
春を追う

も

うすぐ春ですね。Zシリーズの描写力や機動性を活かして、春ならではの自然風景写真を楽しんでみませんか？

春が近づくと撮りに行きたくなるのが、夜空にきらめく天の川です。天の川は暗くないと見えません。そんな時に大活躍するのが、Z8&Z5の「スターライト

ビュー」。ファインダーやモニターで、肉眼では見えない暗闇を明るく表示してくれるので、夜の撮影でのピント確認やフレーミングがとてもしっかりとバッチリです。

やがて朝が近づき、星が消えた後は、そのまま朝日の撮影に。夜明けから日の出の時間帯は、暗い部分を持ち上げて、明暗差を軽減する「アクティブDライティング

(ADL)」が重宝します。空に花が入り込むような、ハーフNDフィルターが使いづらい構図でも、自然な印象のまま露出差をカバーしてくれます。

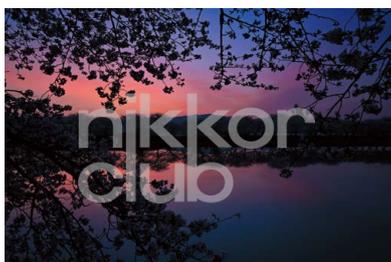
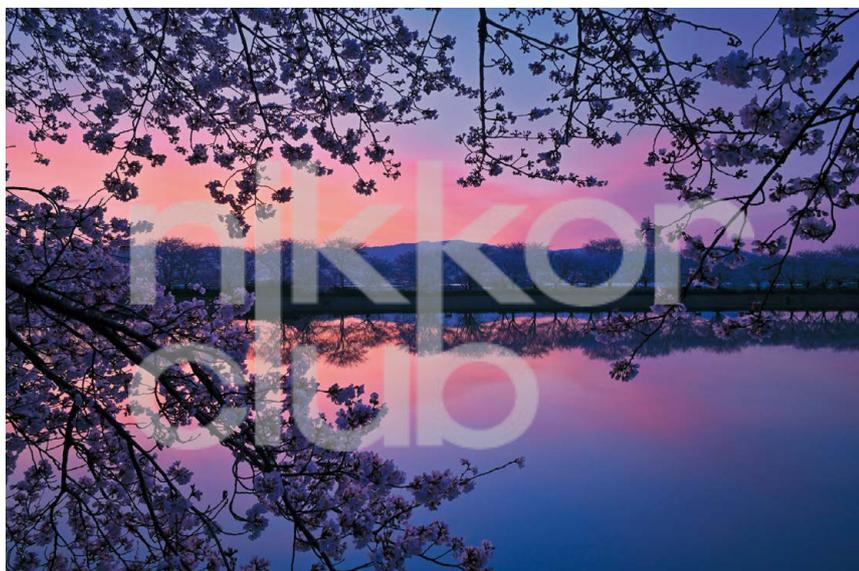
ところで皆さん、きれいな桜を見つけると、大急ぎで近づいていませんか？ ちょっと待って！ 撮りたい被写体を見つけたら、まず「どう撮るか？」を一考してみま

しょう。桜並木や桜と背景を絡める時など、離れた場所から望遠レンズで狙ったほうが良いことも。近づき過ぎてしまっただけでは、遠くから撮った作品のイメージはつかみにくいので、一瞬でも立ち止まって、立ち位置の遠近、高低を想像しておくと、撮りこぼしがぐっと少なくなります。

最後のご提案は、「今年ならではの」を探してみる。

例えば、今冬の雪国は降雪量が多いので、「残雪と桜」の当り年になるかもしれません。ただし、雪が多いと鳥が花芽を食べてしまうリスクがあるので、事前の花付きチェックを忘れずに。

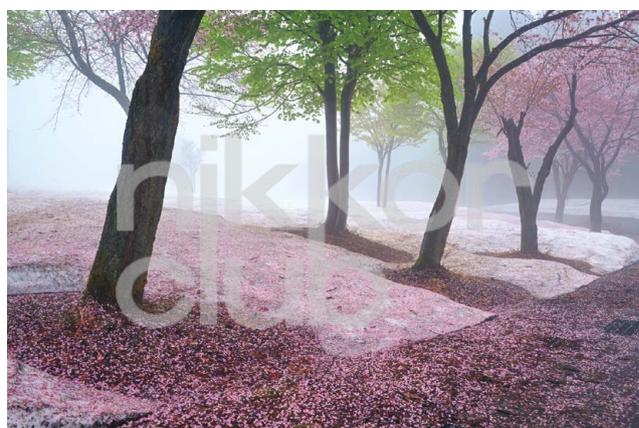
他にも、急に気温が上がり、例年なら順番に咲く種類の花が同時に咲いたり、「今年ならではの」があれば最優先で撮りに行きたいですね。



(上) ADL (H) 適用：私は普段からADLはN(ノーマル)で撮影しているが、朝夕の空と被写体との露出差が大きい時は、H(強め)にする。ハーフNDフィルターを使用、あるいは後で画像処理をする場合でも、ADLと併用すると自然な描写に近づく。(奈良県田原本町) Z8・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S・f/13・0.4秒・ISO100 (左) ADLなし



この撮影地は、街灯や車のライトが桜を浮かび上がらせてくれる。夏のイメージがある天の川だが、明け方に水平線から横たわる形で昇ってくる、春の天の川のほうが私は好きだ。桜などの前景を覆うように空を渡る天の川を、横位置で画面に納める。(奈良県宇陀市) Z8・NIKKOR Z 14-24mm f/2.8 S・f/2.8・15秒・ISO4000



豪雪地帯ならではの残雪と桜のコラボだが、降雪量が少なかったり、気温次第では雪が残らなかったり、残雪が黒く汚れていたりすることもある。残雪に雨が降ると、霧が発生しやすく、雪上の足跡なども融けて消えるので狙い目だ。(新潟県長岡市) Z9・NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S・f/11・1/13秒・ISO100

nikkor
club



第二開発部

合田洋吉 Yokichi Goda

UX企画部

笹沼竜佑 Ryusuke Sananuma

第三設計部

榎田 歩 Ayumu Makida

Zシリーズの 可能性を広げる キットレンズ

多くのユーザーにとって待望といえる、
Zマウント・24-105mmの軽量 標準ズームレンズが登場！
製品に込めた熱意と想いを、開発者の皆さんに伺いました。



NIKKOR Z
24-105mm f/4-7.1

多種多様なシーンの撮影を
1本で楽しめるレンズ開発

——レンズの開発は、どのようにスタートしたのでしょうか？

笹沼 これまでのキットレンズであるNIKKOR Z 24-50mm f/4-6.3は、コンパクトで扱いやすい一方、実際の撮影シーンを考えると「もう少し寄りしたい」「これ一本で完結させたい」という声も多く、特に入門ユーザーにとっては焦点距離の余裕が課題として見えてきていました。そこで、広角24mmから中望遠105mmまでを一本でカバーでき、レンズ交換をせずにさまざまなシーンを撮影できる標準ズームレンズをキットレンズとして提供できないか、という方向性が明確になりました。

榎田 その上で、価格を抑えながらも満足感のある撮影体験を提供することが、設計側にとっても大きなテーマでした。「キットレンズだから」という理由で性能を妥協せず、最初の一本として長く使えるレンズにしたいという思いがありました。そのうえで24mmから105mmまでを一本でまかなえ、

近接撮影も可能な光学設計を成立させるのは挑戦的でしたが、その実現によって撮影体験の幅を広げられると考え、開発が本格的にスタートしました。

合田 また、Zシリーズにふさわしい光学性能に進化し、ミラーレスカメラの軽快さを生かせるよう軽量化に特化したのも大きな違いですね。

軽量化と性能のバランスを突き詰めていった開発過程

——Z5 IIのキットレンズとなっているのも、本製品の注目点です。

笹沼 Z5 IIは高画質なフルサイズを身近に楽しめることを重視したモデルですが、そのコンセプトと今回のレンズは非常に相性が良いと感じています。Z5 IIに装着しても約1050gと、フルサイズのシステムとしては比較的軽く、旅行での長時間の持ち歩きも楽で、日常的に気軽に持ち出せる組み合わせになっています。

槇田 価格の面でも、手に取っていただきやすい価格帯に抑えることがはつきりとした方針でした。そのうえで、撮影の幅を広げるための機能は妥協せず盛り込む、というバランスが開発のテーマでしたね。



Z5 IIとの組み合わせで、重さは約1050g。この軽量設計も、キットレンズとして大きな魅力だ。



「気負わず持ち出せる一本」になるために

——多くの目標を掲げた開発になりましたが、どのような点に苦労されましたか？

槇田 最も苦労したのは、軽量化と近接性能の両立です。近接撮影を実現するためには、フォーカシングで動くレンズの駆動域を大きく確保する必要がありますが、これは光学設計上大きな制約になります。その中で最大撮影倍率の10倍を達成するため、設計チーム内で何度も見直しを重ね、メカ設計担当者とは0.1mm単位でスペーシングを調整し合う状況でした。

また、軽量化のためにレンズ枚数を抑えつつ光学性能を確保することも大きな課題でした。レンズ枚数を増やして性能を上げるのは比較的容易ですが、枚数を減らしたうえで性能を維持するのは難しく、まさに挑戦の連続でした。結果として、シンプルな光学構成を採用することで、美しい描写と軽さの両立を実現しています。

初心者からベテランまで次のステップへ繋がる一本に

——「こんな撮影を楽しんでほしい！」という、ユーザーへのメッセージをお願いします。

笹沼 ぜひ体験していただきたいのが、被写体にしっかりと「寄り

る」レンズということなんです。たとえば望遠端105mmを使えば、テーブルに座ったままでも料理を大きく写すことができ、臨場感あふれる写真を撮ることが出来ます。日常の何気ないシーンから、旅行や外出先でのスナップまで、気負わずに持ち出して、「これは撮りたい」と感じた瞬間をそのまま形にしてほしいと思っています。

槇田 焦点距離の幅が広いので、まずは24mmのダイナミックな広角から105mmの圧縮感ある望遠まで、いろいろと試してみてください。その中で「自分はこの焦点距離が好きだ」という発見があるかもしれません。そして、その焦点距離の単焦点レンズを「次の一本」としてご選択いただくといいのも、素敵な使い方ではないでしょうか。

合田 初心者に限らず、写真上級者の方にとってもこのレンズは「散歩のお供にちょうどいい一本」になると感じています。軽くて取り回しが良く、広角から中望遠、さらに寄りにも強いので、ふとした外出の際にもとりあえずつけておけば、出会った被写体にそのまま対応できます。気負わず持ち出して、撮りたい瞬間を逃さない万能さが魅力です。

幅広いシーンで快適に撮影できるレンズキットが登場!

Z5II 24-105 レンズキット



軽量かつ優れた描写性能を備えた標準ズームレンズのレンズキットが新登場。
どんな撮影スタイルでも最適な組み合わせを、上田先生に解説いただきます。



上田晃司 = 写真・解説

うえだ・こうじ 米国サンフランシスコに留学し、写真と映像の勉強をしながら、テレビ番組、CM、ショートフィルムなどを制作。帰国後、フリーランスのフォトグラファーとして活動開始。ライフワークとして世界中の街や風景を撮影。近年では、講演や執筆活動も行っている。



バンコクのチャイナタウンでスクーターが止まっていたので、筆者オリジナルのイメージングレシビを使って撮影。撮って出して作品ができるので撮影していて楽しい。暗めの路地でシャッター速度は1/25秒だったが、手ブレ補正のお陰でしっかり撮影できた。Z5 II・NIKKOR Z 24-105mm f/4-7.1・f/4・1/25秒・ISO100・WBオート

Z5II

撮像素子	35.9×23.9mmサイズCMOSセンサー、フルサイズ/ニコンFXフォーマット
有効画素数	2450万画素
ISO感度	ISO 100~64000 (ステップ幅: 1/3、1ステップに変更可能)、ISO100に対し約0.3、0.7、1段 (ISO 50相当) の減感、ISO 64000に対し約0.3、0.7、1段、1.7段 (ISO 204800相当) の増感、感度自動制御が可能 ※ 階調モードHLG設定時は、ISO 400~64000 ・ISO感度は、推奨露光指数
モニター	バリアングル式8cm/3.2型TFT液晶モニター (タッチパネル)、約210万ドット、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能 (マニュアル15段階)、カラーカスタマイズ可能
フォーカスポイント	273点 (シングルポイントAF時)、299点 (オートエリアAF時) ※ 静止画モード、撮像範囲フルサイズ/FXフォーマット
寸法	約134×100.5×72mm (幅×高さ×奥行き)
質量	約700g (バッテリーおよびメモリーカードを含む、ボディキャップ、アクセサリシューカバーを除く)、約620g (本体のみ)

コストパフォーマンスに優れた好評のZ5IIボディ

Z9やZ8、Z6 IIIなどの上位機種から多くの機能を継承し、優れた性能と高いコストパフォーマンスを実現したZ5 IIに、新たにNIKKOR Z 24-105mm f/4-7.1レンズキットが追加された。これまではNIKKOR Z 24-50mm f/4-6.3、NIKKOR Z 24-200mm f/4-6.3 VRといったキットレンズが用意されていたが、パランスの良しNIKKOR Z 24-105mmとの組み合わせが登場したことで、旅カメラとしての完成度と注目度はさらに高まったといえるだろう。今回は本キットを携えて実際

に旅へ持ち出し、改めてZ5 IIの魅力と、新レンズNIKKOR Z 24-105mmの使用感を検証した。まずは、多くのユーザーが関心を寄せている新レンズから見ていきたい。

軽量設計と近接性能が特徴の標準ズームレンズ

NIKKOR Z 24-105mm f/4-7.1は、日常から旅先まで幅広いシーンをカバーできる焦点域を備えた、実用性の高いズームレンズである。注目すべきポイントは主に2点。まず、約350gという軽量設計だ。Z5 IIとの組み合わせでも総重量は約1050gに収まり、機動力を重視した撮影スタイルに適している。ま



バンコクにあるワット・アルンを長秒露光で撮影。寺院の細かなディテールまでしっかりと描写していることがわかるだろう。S-Lineレンズではないが、このディテールの表現力がZシリーズの魅力だ。Z5 II・NIKKOR Z 24-105mm f/4-7.1・f/6.3・1/100秒・ISO160・WBオート

カフェで朝食を撮影。旅の醍醐味はやはりご飯なので、可能な限り美しく撮影しておきたい。最短撮影距離が短く、座ったまま自由なサイズ感で小さな被写体を撮影できるので、旅ではとても重宝する。Z5 II・NIKKOR Z 24-105mm f/4-7.1・f/6.3・1/100秒・ISO160・WBオート

た、全長106.5mmのコンパクトな鏡筒は、望遠端までズームしても重量バランスの変化が少なく、長時間の撮影でも快適な操作性を維持できる。

次に、優れた近接撮影性能。焦点距離70-105mmにおいて最大撮影倍率0.5倍を実現し、105mm時には撮像面から約28cmまで被写体に寄ることが可能だ。旅先で出会う料理や雑貨、花などのディテールを、特別な機材を用いずに大きく切り取れる点は大きな魅力と言える。

自然で美しいボケ表現と防塵防滴性能がポイント

描写性能についても、キットレンズの枠を超えた安定した解像力を備えており、遠景の細部までしっかりと描き出す。S-Lineラインではない

ものの、実用域において十分な満足度を得られる画質だ。開放F値は広角端F4、望遠端F7.1と、望遠側ではやや暗めの設計となっているが、近接撮影性能と105mmまでの焦点域を生かすことで、自

然なボケ表現を得ることができ

る。夜間撮影ではシャッター速度の確保が必要になる場面もあったが、Z5 IIの優れた高感度性能により、ISO12800付近でも画質低下を大きく意識することなく撮影できた。また、ボディ内手ブレ補正を活用すれば、ISO感度を抑えた安定した撮影も可能である。

防塵防滴に配慮した設計も本レンズの安心材料のひとつだ。Z5 IIとの組み合わせにより、アウトドアや旅先でも信頼性の高い撮影システムを構築できる。今回はAF-Aモードを用いたスナップ撮影を中心に試したが、被写体検出機能との組み合わせにより、状況に応じた適切なフォーカシングがスムーズに行え、快適な撮影体験を得ることができた。

本レンズ単体で見ても、初めての交換レンズとしてはもちろん、軽量で汎用性の高い旅用ズームレンズを求めるユーザーにとっても、本レンズは有力な選択肢となるだろう。描写性能と携帯性のバランスに優れた一本として、その実力をぜひ体感していただきたい。



Z8・NIKKOR Z 24-120mm f/4 S・f/16・1/180秒・ISO200

春盛り、静岡の岩本山公園。
Z8を手に散策。

青空を背景に抜けるような
富士山と桜、日本に生まれた
幸福を感じる瞬間。

レンズは

NIKKOR Z 24-120mm f/4 S、

これ一本だけで

満足の標準ズーム。

花びら一枚一枚の描写力に
至福の春時間。